

## ◆なぜシマエナガは北海道だけにいる？(生息地とその理由)

お茶目なシマエナガ、森ボラホームページの澄川「自然リポート・鳥」に掲載の41・エナガ/高野リポート・2014年4月15日付、が報告されています。実に、11年ぶりにシマエナガを捉えることができました。

北海道全域での生息が確認されているものの、本州では見られないシマエナガ。なぜ北海道だけにいるのか、その理由はブラキストン線にあると考えられています。ブラキストン線とは、北海道と青森の間の津軽海峡に引かれている陸上動物の分布境界線。このラインの北と南で、動物の種類や見た目の違いが生まれることがあります。シマエナガの祖先も北海道にわたり、そこで北海道の環境に適合するかたちで進化したのかもしれませんが。



撮影日：2025/02/26・11:50・ヤマガラと共に  
撮影場所：札幌市澄川都市環境林内・森ボラ朝の集会場所  
(OLYMPUS E410・f/9・150mm)

ふだんは広葉樹や針葉樹が入り混じった森林で暮らすシマエナガ。12月～2月、この時期は、札幌市内でもシマエナガを見られるチャンスもあります。森から市内へやって来る理由は、大好物の樹液を食べるため。街路樹や公園の木の樹液を求めて、都市部に舞い降りるのです。



シマエナガは、スズメの仲間で、雪の妖精とも呼ばれています。特徴は、真っ白な顔と丸い体つき、ふわふわとした白い羽毛、長い尾羽などです。スズメより少し小さな体で、真っ白な毛で覆われています。尾羽のことを「柄(え)」といい、エナガは尾が長いという意味があるようです。「シマ」は「島」と

書き、北海道をあらわしているとのこと。漢字で書くと「島柄長」となるようで、北海道でしか見られない一種なんですね。アイヌ語名は「雪の鳥」といいます。雪玉を思わせる白くて丸みのある体つきに由来するのでしょうか。

シマエナガはスズメ目エナガ科の「エナガ」という鳥の亜種なのですが、北海道では全域に生息しているため、街の中で見かけることもあると言う。シマエナガは「チーチー」や「ジュリリ」などといった感じの鳴き声で鳴き、アクロバットショーが開催されているようで、体が小さくすばしっこいので森の中で見つけることはなかなか難しいのです。

写真・文/西野(悌)